

修正版



ハウステンボス 夏トピックス-01

2010年7月2日

～ニューヨークを中心に第一線で活躍するプロの音楽家の音色に浸る～

“ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル ハウステンボス公演”開催

開催日：2010年7月14日(水) 19時30分～

夏シーズンを間近に控えたハウステンボスでは、7月14日(水)に一流の音楽家たちが奏でる旋律に触れる「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル ハウステンボス公演」を開催します。

創立30年の歴史を誇り、指揮者 高原 守(たかはら まもる)率いるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル。世界中で幅広い活動をする中、2008年にハウステンボスでも初コンサートを開催し人気を博しました。その一流の音楽家たちにより今年で3回目となるコンサートが実現。また、初夏限定で開催しているチャペルコンサートに14日(水)当日に特別ゲストとして参加します。会場がチャペルということもあり、本公演とは異なる一味違ったコンサートをお楽しみいただけます。

ぜひ夏のハウステンボスで、ニューヨーク発の優雅な音楽に浸る時間をお楽しみください。

《概要》

◆7月14日(水) ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル ハウステンボス公演

開演：19時30分～21時00分

(開場19時 ※途中休息あり)

会場：ユトレヒトプラザ

席数：700席

料金：前売券 2,000円/当日券 2,200円

※ハウステンボス入場料は含まれていません。

7/16(金)まで入場料キャンペーン中です。

平日 15時30分～17時30分 入場無料

18時00分～20時00分 一律200円



◆7月14日(水) チャペルコンサート

特別編成によるチャペルコンサートを開催いたします。

開演：15時00分～

会場：スタッドハウス

料金：無料

※別途入館料が必要。一般400円(ファミリー年間パスポート会員、とくとくチケットをご利用の場合は無料)

ローソン・ファミリーマートで前売券発売中

期間：7月1日(木)～7月12日(月)23時まで

窓口：【ローソン】Lコード：82340 /【ファミリーマート】e+(イープラス)

料金：観賞前売り券 2,000円

お客様のお問い合わせ先：ハウステンボス総合案内センター

0956(27)0001

トピックスのお問い合わせ先：宣伝課 中野・内菌

0956(27)0180

ハウステンボス

音楽監督 兼 常任指揮者:高原 守 (たかはら まもる)

1979年より、N.Y.S.E.(ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル)の音楽監督、常任指揮者を務める。国立音楽大学卒業後、レナード・バーンスタインにその実力を認められ、指揮を学ぶために渡米。1976年にフィルハーモニア・ヴィルトーク・オブ・ニューヨークを指揮してアメリカでデビュー。1979年秋、N.Y.S.E.の前身であるニューヨーク・メトロポリタン室内管弦楽団の音楽監督に就任。1983年、名称をN.Y.S.E.(ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル)に改め、以来音楽面ならず、全体のプロデュース、マネジメントに携わり、中心的な存在として活躍中。



《プログラム紹介》

■モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲
第5番 イ長調 【トルコ風】 K.219

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)は生涯で5つのヴァイオリン協奏曲を遺しています。それぞれが特徴的な作品で、ヴァイオリンの名手でもあったと言われているアマデウスの才能が凝縮されていると言われています。なかでも1775年にザルツブルグで作曲された、この第5番は、モーツァルト青年期の傑作として世界中のヴァイオリニストたちに愛され、演奏され続けています。「トルコ風」のニックネームは終楽章の中間部に使われた当時の流行したトルキッシュイメージが彷彿としていることから付けられていますが、非常に品格の高い堂々とした内容の深い作品です。3楽章構成。

■グローブ：トミーポルカ
(オーケストラ本邦初演)

咸臨丸が護衛艦として太平洋を横断した時、護衛した米軍艦ポーハタン号で渡米した日本人を謳った楽曲。その日本人、トミーこと立石 斧次郎(たていし おのじろう)さんは通訳で、侍の格好をした人柄の良い方で愛され曲にまでなったそうです。制作100年後の1960年にトミーを謳った曲と判明し、今回ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルでは初の公演となります。

1860年(万延元年)、日米修好通商条約批准書交換のため太平洋を渡り、現地アメリカで超人気アイドルとなった江戸幕府最後の侍、立石斧次郎(長野桂次郎)がきっかけとなって生まれた作品です。侍という厳格なイメージを抱かせますが、当時の彼は16歳のやんちゃな少年で、その人柄から「トミー」の愛称で親しまれ、当時のアメリカ人たちに愛されたといわれています。そしてついには『トミーポルカ』というヒット曲までも登場するという熱狂ぶりだったそうです。この曲を作ったのは当時アメリカで活躍していたドイツの作曲家チャールズ・グローブ(1817-1879)。当時、ワシントン並びにボルチモアで巻き起こったトミー人気を題材に作曲されたと言われています。

■チャイコフスキー
：バレエ音楽「白鳥の湖」よりナポリの踊り

ロシアの大作曲家ピョートル・チャイコフスキー(1840-93)の作曲した三大バレエのうち、最も幻想的な「白鳥の湖」。全幕で三時間におよぶ大作は、どの部分をとっても無駄のない名作中の名作です。その中から、第3幕に登場するこの曲はイタリアのナポリ地方の風景を彷彿とさせるメロディです。トランペットによる柔らかな旋律が美しく、途中からテンポが速くなり、陽気で明るい雰囲気につつまれます。

■ビゼー：歌劇「カルメン」より組曲

フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)によって作曲された歌劇『カルメン』(全4幕)は、1875年、パリで初演されましたが不評に終わりました。人気を博すようになったのは、ビゼーの死後ギローにより改作されて以降です。現在ではフランスオペラの代表的な作品として世界的に人気があり、様々な版が出版され、また近年ではミュージカル仕立ての舞台も発表されるなど、作品自体の地位は不動のものと言って過言ではありません。我が国でも浅草オペラから藤原歌劇団などによってたびたび上演され、最もポピュラーなオペラとして定着しています。本日演奏する組曲は、その作品のなかの名曲をオーケストラだけで演奏するにふさわしいアレンジが加えられたホフマンの編曲による2組です。前奏曲や間奏曲と言ったオーケストラ主体の音楽で構成された第1組曲とアリアや合唱曲を編曲した第2組曲があります。それらを入混せて演奏されることが多く、CDなどの録音も指揮者によって曲目、曲順が違ふことがあります。